

一般社団法人日本老年看護学会
令和7年度社員総会議事録(案)

I. 日 時：令和7年6月28日（土） 17時10分～18時30分

II. 会 場：幕張メッセ 第3会場 303会議室

III. 司 会：鳥田総務担当理事

IV. 書記：杉山智子代議員、横山久美会員

V. 議事録署名人：湯浅理事長、岡本理事

VI. 社員数 議決権を有する社員数：98名

出席者：43名

委任状：53名

未回答者：2名

名誉会員1名（中島紀恵子先生）

1. 開催について

・鳥田理事より議決権を有する委員数98名中、出席者と委任状提出者を合わせて過半数となったため、定款第17条に則り、本社員総会の成立が宣言された。

また、定款第16条に則り、議長は湯浅理事長となることが説明された。

・社員総会に先立ち、今春、本学会に多大なるご貢献を賜った名誉会員・沼本教子先生、第4代理事長・堀内ふき先生のご逝去を悼み、1分間の黙祷を捧げた。

・湯浅理事長より開会の挨拶があった。

今年度、学術集会長も務めており、約1,800名の事前申し込みに加え、当日参加を合わせると現時点で約2,230名の参加となっている。理事会は、正木前理事長に敷いていただいたレールにのり、新たなことというよりもこれまでのことを引き継いできた。最近は対外的なことが増えた感覚があり、注目してもらっている証と考えている。

・定款第22条に則り、議事録署名人は湯浅理事長および岡本理事が務めることとなった。

2. 報告事項

1) 理事会報告

山田副理事長より、資料1に基づき①～⑦の活動内容の詳細について報告された。①理事会の開催（4回ほかメール審議、②学術集会の開催（第29回）と準備（第30回、第31回）、学術集会長推薦（第32回）、③「急性期病院における高齢者のフレイル予防・回復に向けた看護」への提言の最終版をホームページに掲載、④「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に関わる活動の推進として「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」立場表明（2016）を改訂中、「認知症看護スタンダード」（照林社）を発刊、⑤日本老年学会「長寿科学賞」表彰候補若手研究者選考委員会の設置、応募者7名から1名を推薦し、第34回日本老年学会総会で表彰および講演予定、⑥30周年記念事業として、シンポジウム（2025年11月24日予定）と記念誌（電子媒体）の作成を予定、⑦研究論文表彰選考、研究助成事業（2024年度創設）

2) 総務報告

鳥田総務担当理事より、資料1に基づいて報告があった。

会員数は令和7年3月31日現在で2,980名であり、前年度より130名増加していることが報告された。また、会計・広報活動の詳細が報告された。全体としては、30周年記念事業に向けた準備を行っていること、各種調査協力依頼への対応を行っていることが報告された。

3. 委員会報告（資料2）

1) 編集委員会（三重野委員長）

・学会誌の編集・発刊として、第29巻第1号、第2号編集・発行（うち事例報告計3編掲載）した。採択率は、第29巻第1号50.0%、第29巻第2号39.1%であった。現在、2025年7月発行予定の第30巻第1号を編集中である。第30巻第2号（2026年1月発行予定）の投稿締切は7月31日、第31巻第1号（2026年7月発行予定）は11月30日である。

・第30回学術集会にて、編集委員会企画『事例報告』投稿論文作成のポイントを予定している。

・学会誌のあり方検討として、掲載論文のオープンアクセス化を行った。

・令和5年度からの共著者制限廃止による投稿状況をモニタリングし、課題があれば随時対応する。

2) 研究活動推進委員会（亀井委員長）

・令和7年度研究助成事業では、1件の応募があり採択した（助成額25万円）。

・2025年3月1日に『高齢者ケア実践現場における研究シーズのみつけ方と研究へのつなげ方』というテーマで企画し、Webで開催した。参加者は83名（会員65名、非会員18名）であり、参加者アンケートでは肯定的なコメントを得た。

3) 教育活動推進委員会（鈴木委員長）

・DX/ICTに関する情報の共有として、看護系のICT教育ツールをリスト化し、学会ホームページへ公開した。

・第30回学術集会にて、「DXを用いた看護学教育におけるシミュレーション教育－臨床実践力を育てるための教育方法と老年看護学への展開－」を企画し、開催する予定である。演者は阿部幸恵氏（東京医科大学）、鈴木みずえ委員長・稲垣圭吾委員（浜松医科大学）である。

・8月7日に『老年看護学実習について話そう』というテーマで、それぞれの大学の取り組みを発表する内容の情報交換会を開催予定である。

4) 老年看護政策検討委員会（藤田委員長）

・令和8年度診療報酬改定に向けて、本会より以下の3つの要望を看保連に提出した。6月17日に看保連より厚生労働省保険局医療課長に要望書として提出された。

① フレイル重症化予防管理料（仮称）の新設

② 認知症外来における看護師の情報通信機器利用による療養相談【新設】

③ A234-4 重症患者初期支援充実加算の施設基準における研修の追加（共同提案：日本家族看護学会、日本高度実践看護学会）

- ・令和 9 年度介護報酬改定に向けて、医師が常駐しない高齢者施設における専門性の高い看護師が行う医療ケアの実態調査について取り組んでいる。

- ・第 30 回学術集会で委員会企画として、「エンドオブライフを支える介護施設における看護実践を再考する―看護の専門性と経済的評価―」を CNS・NP を演者に迎え開催した。

5) 国際交流委員会（グライナー委員長）

- ・国際誌掲載論文として、Geriatric Nursing、International Journal of Nursing Studies のオープンアクセス論文を含めた論文（隔月 3 論文）をホームページへの掲載やメールマガジンで紹介した。

- ・日本における高齢者への看護実践の紹介動画を編集し、全編と全編をテーマごとに 5 分割した動画についてホームページに掲載した。

- ・国際学会開催予定一覧の更新を継続している。

- ・2024 年にシアトルで開催された GSA において若手研究者 1 名、CNS1 名の参加レポートをホームページに掲載した。

- ・2025 年 2 月 21 日に国際交流委員会企画セミナーをオンラインで開催した。テーマは「フィンランドと日本における地域での高齢者ケアの実践 ～コンパッション都市・コミュニティの形成へ向けて～」であり、104 名の参加があった。参加者アンケートではポジティブなフィードバックが得られた。

6) 生涯学習支援委員会（岡本委員長）

- ・今年度から対象者を明確にした形で柱立てを変更した。実践者、看護管理者、認知症看護対応力向上研修修了者、看護教育に関わる者、ELNEC-JG 指導者の 5 つのグループに分け、2024 年度は 4 つの研修を行った。

- ・昨年度は初めて看護管理者を対象とした研修を初開催し 24 名の参加を得た。参加者アンケート結果を踏まえ、今年度は看護管理学会にて、老年看護の立場から高齢者ケアの看護管理について考えるインフォメーションエクスチェンジを企画している。

- ・今年度、初めて看護教育者を対象とした研修を、2025 年 8 月 30 日にテーマ「教育機関における老年看護講義展開 up to date」で開催予定である。

- ・学会ホームページに ELNEC-JG 専用サイトを開設した。

7) 災害支援検討委員会（西山委員長）

- ・「災害時の高齢者支援ガイド」「避難所における認知症高齢者のスクリーニング&アセスメント」の活用として、日本認知症ケア学会ブロック大会等、他学会へ配布した。

- ・生涯学習支援研修の実践編「災害看護」を 2025 年 2 月 8 日に行い、50 名（会員 31 名、非会員 19 名）が参加した。

- ・日本老年看護学会誌第 29 巻第 2 号の特集「災害支援経験から学ぶ災害への備え」に委員会から寄稿および 2024 年度に名取市で行った研修についての報告を掲載した。

8) 専門看護師・認定看護師活動推進委員会（吉岡委員長）

- ・老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師の看護実践の PR として、隔月に活動報告を学会ホームページに掲載した。

- ・他分野の専門看護師、認定看護師との積極的な連携協働に向けて研修会を開催した。テーマ「超高齢者の食べる力を落とさない支援」で2部構成とし、第1部で歯科医師、栄養士、老人看護CNSから話題提供をし、第2部でグループワークを行った。104名（専門看護師32名、認定看護師70名、認定看護師・専門看護師2名）の参加があり好評であった。
- ・老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師の実践力強化に向け、研修会を開催した。テーマを「認知症高齢者のACP」とし、精神科医にご講演いただいた。186名（専門看護師37名、認定看護師146名、認定看護師・専門看護師3名）が参加し、好評であった。
- ・老人看護専門看護師の活動実態調査について、調査結果が老年看護学会誌第29巻第2号（p90-97）に掲載された。続報は第30巻第1号に掲載予定である。
- ・第30回学術集会でCNS・CN限定の研修会を委員会で2企画実施する。CNS・CNの更新制度が変更になったこともあり、初めての試みとして企画した。

9) 研究論文表彰選考委員会（原委員長）

- ・規定申し合わせに従いオンラインシステムを用いて理事、監事、代議員による厳正なる審査を行い審査率75%で、結果を基に委員会で審議、理事会での承認のもと、令和7年度研究論文優秀賞1件（老年看護学会誌第28巻第2号掲載）、研究論文奨励賞1件（事例報告）（同誌第28巻第2号掲載）を選考した。なお、研究論文奨励賞で事例報告が受賞したことは初めてである。第30回学術集会会員総会で表彰を行う予定である。

10) 研究倫理審査委員会（正木委員長）

- ・新規申請が2件あった。簡易審査を実施し、1件は承認され、すでに研究を開始している。もう1件は継続審査後に取り下げとなった。
- ・昨年度から引き続きで研究倫理審査のプロセスを再検討し、メールを活用した申請や書式修正、規程を一部改正し、会員専用サイトに掲載している。

11) プロジェクト委員会（北川委員長）

- 2024年度に新たに発足した委員会であり、2つの活動計画に基づいて活動した。
- ・認知症基本法の理解の促進
学会ホームページに2024年11月から連載「認知症共生社会の実現に向けて」を開始した。5月までに6回掲載した。
- ・「急性期病院において認知症高齢者を擁護する日本老年看護学会の立場表明2016」を認知症基本法に対応した内容に刷新する。
2016年版の活用状況や改訂への提案等に関する会員へのWeb調査を2025年1月～3月まで実施した。回収状況は、142名（当時の会員数2,947名）であった。改訂への提案として、「本人の意見を反映させる」「新しい認知症観を加える」「看護管理者に向けたメッセージを加える」「急性期病院だけでなく、入院前、退院後の医療機関でも使えるもの」「急性期病院の看護師が勇気づけられる内容であるとよい」といった意見があった。並行して協力者からの意見収集として、医師からは書面記入、本人、家族、CNS、CNにはインタビューを行い、原案作成し、協力者にコメントをもらっている。第30回学術集会の委員会企画では、『急性期病院において認知症高齢者を擁護する日本老年看護学会の立場表明』再考「共生社会の実現を目指して-」というテーマで、『認知症の人と医療機関の懸け橋となる看護への提言

(案)』の公表と、本人・家族から指定発言をいただく予定である。また、その結果や改訂原案を配付した上で、精緻化を進める。

以上の報告事項について、質問・意見がないことを確認し、承認を得た。

3. 審議事項（議長：湯浅理事長）

1) 第1号議案：監事の交代

堀内ふき監事より2024年12月に「2025年6月の社員総会をもって辞任する」旨の申し出があり、前回選挙の次点であった百瀬由美子代議員を新監事として社員総会に諮ることを2025年2月27日に開催された理事会にて承認された。その後、4月30日に逝去されたと連絡があった。

監事の選任は定款13条、24条により、社員総会の決議となるため、今回、議案としてその旨、審議され、出席者の挙手多数にて百瀬由美子代議員を監事に選任することが承認された。

2) 第2号議案

(1) 令和6年度決算（案）

丸山理事より資料4、6に基づき、令和6年度決算（案）が報告された。

正味財産合計13,127,007円（6,425,786円増）であり、全体として黒字決算であった。事業活動収入では、年会費の入金率は94.2%であった。委員会事業収入となる研修への参加者は318名であった。第29回学術集会事業には、1,501名の参加があった。一般会計の事業費支出のうち、理事会、各委員会の開催については対面あるいはWebでの方法の検討を行い、交通費の支出を抑えた。第29回学術集会の収支は200万円の黒字であった。特別会計1生涯学習支援研修ではそれぞれの事業で収支を検討して実施した。また、特別会計2学術集会合同学会は、前年度の繰越金7,784,045円に雑収入3,632円を足した7,787,677円が繰り越しとなった。特別会計3学会積立金は支出なく雑収入と合わせて次年度に繰り越す。

(2) 令和6年度決算監査報告

酒井監事より資料に基づき、令和7年5月17日に令和6年度会計決算を監査され、適正かつ正式なものであることが認められたと報告された。

なお、今回の監査を1名の監事で行うことについては定款に抵触することがないことを確認している。

第2号議案の報告に対し、質問・意見等なく、出席者の挙手多数にて承認された。

3) 第3号議案：令和7年度事業計画（案）

湯浅議長より、令和7年度事業計画案として資料8-1に基づき17項目の事業計画案について報告された。

4) 第4号議案：令和7年度予算（案）

丸山理事より、資料9に基づき報告された。

事業活動収入は、現会員数に会員微増を勘案して年会費を算出している。学会費販売、著作権使用料は実績を基に算出している。第 30 回学術集会事業収入は、2,000 人の参加者を見込んで算出している。また、一般会計の事業費支出では、理事会、総務関連費、各委員会の活動を踏まえて算出している。また、選挙管理委員会のシステム使用料、30 周年記念事業費として記念誌作成、シンポジウム開催のため予算を計上している。第 30 回学術集会事業支出として、合同学会の負担分、ポケットプログラムの予算が含まれている。管理費支出はほぼ例年通りで、会議・委員会事務委託費を増額して計上している。特別会計 1 生涯学習では 5 つの研修が企画されており、費用を計上している。特別会計 2、3 は支出の予定はない。

湯浅議長より、本学会は黒字が続いており、繰越金等が多くあるため、令和 7 年度の一般会計予算は、繰越金が若干減る予算としている。今後、事業の要望などがあれば組んでいきたい。しかし、他学会の様子から会員が減少に転じると厳しい財政となる状況があるため気を緩めずにいきたいと話された。

第 3 号議案ならびに第 4 号議案について、質問・意見なく、出席者の挙手多数にて承認された。

5) 第 5 号議案：令和 8 年度事業計画基本方針（案）

湯浅議長より、資料 8-2 に基づき、16 項目の事業計画基本方針(案)について報告された。30 周年記念事業では記念誌（電子媒体）の発行、プロジェクト委員会からの提言が出されるなど、活動を推進し、次のステップに進んでいく予定であることが説明された。

第 5 号議案の説明に関して、質問・意見なく、出席者の挙手多数にて令和 8 年度事業計画基本方針（案）は承認された。

6) 第 6 号議案：名誉会員の推薦

湯浅議長より、資料 10 に基づき、名誉会員として太田喜久子氏、堀内ふき氏の 2 名の代議員が推薦された。

第 6 号議案について、質問・意見なく、出席者の挙手多数にて承認された。会員総会において、名誉会員証の授与を行う。

また、太田喜久子氏より、承認をうけて、挨拶があった。

これをもって社員総会の議事が終了した。

4. 学術集会長挨拶ならびに開催案内

鳥田理事の進行により、第 31 回三重野学術集会長、第 32 回の山元学術集会長より挨拶があった。

1) 第 31 回学術集会

第 31 回学術集会長の三重野理事より、第 31 回学術集会について、
「住み慣れた地域で老い暮らす幸せ」をテーマとして、2026 年 6 月 20 日～21 日に大分県別府市の別府ビーコンプラザにて開催されることが説明された。

2) 第 32 回学術集会

第 32 回学術集会長の山元会員より、第 32 回学術集会について、
2027 年 6 月 10 日（木）～12 日（土）に鹿児島市内 4 か所で第 35 回日本老年学会総会（テーマ：日は好日 人生の最終章を支える老年学）と合同で開催されることが説明された。
平日開催が中心であるため、オンデマンドも充実させていく予定である。

なお、湯浅理事長より、今回、山元会員に学術集会長を依頼する経緯について説明がされた。第 35 回日本老年学会総会と合同開催であるが、鹿児島市での開催決定が昨年 12 月に連絡された。鹿児島県は、会員も少ない上に代議員がいない状況であり、会員を探したところ、GCNS である山元会員であれば CNS の力も借りることができるだろうと考え、依頼して引き受けていただいたと説明があった。

今回、九州での開催が続くが、4 年後の第 36 回日本老年学会総会は名古屋で開催予定である。

5. 連絡事項

総務の鳥田理事より、以下の案内・連絡が行われた。

1) 入会申し込みにあたり推薦者となっていただく際のお願い

推薦の依頼があった場合は、代議員に推薦をお願いしたい。また、代議員を知らない人も
いるため、事務センターから紹介することがある。その際は、入会希望者について快く推薦
してほしい。

2) メールマガジンへの登録の依頼

現在、研修会の案内等、他の学会を含めた様々な情報はメールマガジンから配信している
ため、登録を勧めてほしい。

3) 日本医療安全調査機構(医療事故調査・支援センター)の調査等への協力状況の報告

桑田理事より、今年度は、5 事例、うち 1 事例は 2 名の推薦を要請され GCNS を中心に協
力依頼をした。「医療事故の再発防止に向けた提言」が出されており、こちらを職場等で活
用してほしいとの説明があった。

4) 「認知症看護スタンダード」の発刊

湯浅理事長より、本学会が編集にかかわった「認知症看護スタンダード（照林社）」が発
刊されたため、活用をお願いしたいとの説明があった。

5) 30 周年記念事業への協力依頼

WEB 記念誌、記念シンポジウムを 2025 年 11 月 24 日にウェビナー開催する。
認知症に関する内容とする予定。参加型企画として、未来に残したい老年看護学が大切に
していることのキーワードの募集を行い、シンポジウムや記念誌に掲載していく予定との説

明があった。

6. 閉会の宣言

司会の鳥田理事より閉会の挨拶が述べられた。

以上

理事長 湯浅美千代 印

署名理事 岡本 充子 印